

はじめに

校長 鎌田 裕之

昨年度から研究主題を「児童生徒が「経験から考え、行動する力」を高める授業づくり」とし、新学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、児童生徒が主体的に学習に取り組み、実感できる経験をくり返すことで、自ら考え、行動できる力を身につけていくことが大事であると考え、2カ年にわたって実践的な研究を進めてきました。今年度は、副題を「何を学んだか、何ができるようになったかという視点を通して」とし、学習内容や経験の質にも焦点を当て、学んだことが本物の力になっているのか、そのような授業になっているのかという評価を含めた研究に取り組んできました。

2カ年の研究実践で、小中高どの学部においても、地域や人との関わりを題材とした単元や学習内容が計画され、児童生徒同士での気付きや話し合い、考える場面設定のある授業が多くなってきたと感じています。また、長期的な計画で、課題のレベルを上げながら、活動を繰り返すことで、一人一人の考え方の深まりやコミュニケーションスキルの向上等が図られました。12月7日には公開研究会を開催しましたが、参加者から授業を参観して、それぞれの学部ごとの研究テーマである「自分で気付き、考え、目標に向かって取り組む（小学部）」「一人一人が実感をもって活動に取り組む、自分たちで成し遂げる（中学部）」「自己の目標や課題が分かり、達成にむけて取り組む（高等部）」という児童生徒の姿が見られたという感想をいただくことができました。公開研究会という目標に向かって、研究を推進してきたことで、指導内容や指導方法等の授業改善が図られ、それによる児童生徒の変容が見られたことは大きな成果と考えています。

しかしながら、学校経営における第一の重点である「豊かな教育のある学校の実現」に向けて、この1年の日々の授業を振り返ったとき、まだ多くの課題があることを感じます。昨年度の成果の上に授業の質の向上が図られてきたのか、児童生徒の目標設定が果たして妥当なものであったのか、そのため実態把握が適切であったのかなどが課題としてあげられます。秋田県総合教育センターと隣接している本校は、特別支援教育における研究や授業をモデル的に行う使命があると認識しています。実践的な研究を進め、その成果を県内外に発信していくこと、教職員が特別支援教育を学ぶ研修の場として、それに耐えうる授業のレベルに向上させ、維持していく必要があります。今以上に意識を高くもち、次年度以降の研究推進並びに日々の授業力の向上を目指した研修に取り組んでいきたいと思いません。

今年度の研究実践を研究紀要「共に歩む第15号」としてまとめました。ご高覧いただき、皆様から忌憚のないご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、秋田県総合教育センターの指導主事の先生方には、1年間を通して授業への指導助言をいただき、また研修会、講座等で多くの指導をしていただきました。ここに改めて感謝申し上げます。